

糖尿病患者の嗜好について
 文政大友政 鶴見薫 ○泉敬子

目的 糖尿病患者の発病前の食事嗜好は大きく二つに分れどおり *fatty diet* に傾いているものと *sweet diet* に傾いているものがあるとされている。そこで今回は発病後の嗜好傾向を知り食事指導の参考にしたいためと考え本調査を行った。

方法 千葉大学附属病院で治療をうけている外来患者245名を対象としアンケートにより嗜好及び3日間の食事の摂取状況を知り検討した。

結果 男女共に穀類を好む者30%前後、魚、肉、卵を好む者45~50%、菓子類を好む者30%前後で食品としては動物性タンパク質を好んでいる。

男女共90%以上の人に好まれている料理は茶やんむし、魚塩焼、肉すまやま、さしみ等でありこのほか男子が好むものとしては天ぷら、目玉焼、女子では魚とり焼、オムレツ等があげられる。又食事について特に注意している事を質問した処、①糖分をとらない様にしていて、75%②野菜を多く摂る様にしていて、71%③栄養のバランスを考えといて、61%④果実を毎日摂る様にしていて、59%⑤牛乳を毎日飲む様にしていて、57%となっている。糖尿病の治療食としては栄養のバランスをとる事が最も大切であり食事指導の必要性が大いだと考える。又嗜好調査と同時に記録してもらった外来患者の食事内容についても検討した。指示カロリー-1000~1920カロリーまでの25人について行ったが、病院で食事指導をうけている為、嗜好に偏り方としている者は少ないが、やはり栄養のバランスの良否、なお工夫を要する者が多い。